

新カリキュラムに備えた生化学・免疫血清検査臨地実習の取り組みについて

◎岡庭 玲奈¹⁾、勅使川原 篤志¹⁾、安藤 嘉崇²⁾、齊藤 翠¹⁾、長嶋 和子¹⁾、杉本 恵子²⁾、星 雅人²⁾
藤田医科大学病院¹⁾、藤田医科大学²⁾

【目的】臨地実習において、従来は行動目標として位置づけられていた実習項目が、「臨地実習ガイドライン 2021」では学生に必ず実施させる行為、必ず見学させる行為、実施させることが望ましい行為として分類された。当院の化学免疫検査室が担当する業務内容としては精度管理、メンテナンス作業、血液ガス分析検査、採血室業務が該当する。当院では新カリキュラムに備え、2023年度の臨地実習を大幅に変更し対応したため、生化学・免疫血清検査の臨地実習について取り組みを報告する。

【臨地実習の期間と内容】実習期間 24 日間に対し、従来 8 日間×3 部署での実習であったが、新カリキュラムでは全部署ローテーションのため、化学免疫検査室に割り当てられた期間は 2 日間であった。1 日目午前に業務全体の説明、精度管理の説明と精度管理図の作成、午後に採血室業務および精度管理業務の現状を見学、2 日目午前に血液ガス分析を含む日常業務の見学と実習、午後にメンテナンス作業の見学、症例検討及びその解説を行った。なお、各業務の説明については、事前に現場での作業を撮影した動画を活

用した。実習前後でのアンケートは当院臨床検査部で実習を行った藤田医科大学医療検査学科 68 名を対象とした。

【結果】実習後に行った学生自身の理解度向上を尋ねたアンケート結果は、血液ガス分析：100%、精度管理：98.5%、分析装置の構造：95.6%、メンテナンス：98.5%であった。向上を感じなかった意見として、精度管理は講義や臨地実習先で得た情報と同じであった、分析装置については装置の数や構造に対して理解が追い付かなかったなどがあがった。もっと知りたかった内容として、血液ガス分析は病態と紐づけた検査結果の見方、精度管理については管理限界を超えた場合の対応が意見としてあがった。

【まとめ】臨床現場の変化とともに教育も変化しており、臨地実習もそれに対応しなければならない。限られた期間のなかで現状に即した有意義な実習を行うため課題を洗い出し、よりよい臨地実習となるよう次回に向け改善を図りたい。

連絡先 0562-93-2305